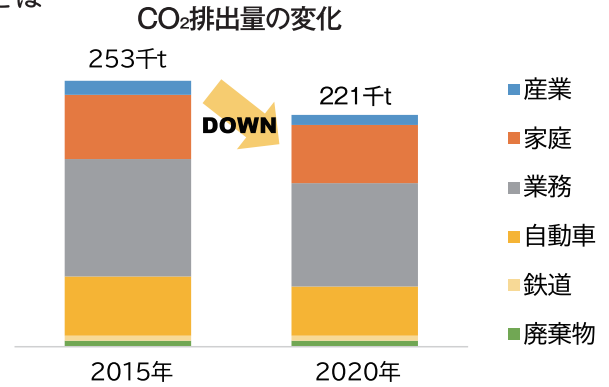


# 福生市の環境の今は？ 課題は？

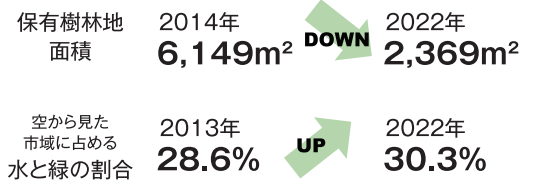
## 気候変動について

- ・「今世紀半ばまでに人為的な温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」こと（脱炭素・カーボンニュートラル）が、世界全体の約束になっています。
- ・温室効果ガスの排出量は、店舗や事務所などの業務部門が45%、次いで家庭部門が26%、運輸部門23%の順に多く、割合の大きい業務・家庭部門では減少傾向がみられません。
- ・再生可能エネルギーの導入可能性は、建物屋根での太陽光発電が中心ですが、その他手法をあわせた総量が不足するため、地産地消で市内のエネルギー需要をまかなうことはできません。
- ・このまま温暖化が進むと、今世紀末には平均気温が3.4℃上昇、猛暑日は25日増加する予測があります。
- ・気象災害が激しくなり、多摩川の洪水や崖線などの斜面崩壊の危険性が高まること、熱中症の患者数が増えることなども考えられ、こうした事態への備えが必要です。



## 生物多様性について

- ・私たち人間の命は、様々な生きものつながり=生物多様性によって支えられています。失われ続けてきた生物多様性を回復させるための緊急の行動が求められています。
- ・福生市では、多摩川と玉川上水・熊川分水・田村分水が水辺のネットワークを、崖線沿いの樹林地が緑のネットワークを構築しています。
- ・多摩川の水質は清流域の状態を取り戻しました。しかしハリエンジュなど高木の樹林化、河川流量の少なさなど様々な要因で河原固有の生きものの姿は少なくなっています。
- ・礫河原再生の中心的な動きとして、研究者・市民・行政の協働で「カワラノギクプロジェクト」が継続されています。
- ・崖線の雑木林、住宅地の中の農地は、住宅都市にとって貴重な緑です。しかし、宅地化の進展によって減少傾向が続いています。
- ・人為的な持ち込みや気候変動により、人間の生活や自然環境に害を及ぼす生物が侵入・定着する可能性に注意が必要です。



## 資源循環について

- ・廃プラスチック有効利用率の低さや海洋プラスチックによる環境汚染が世界的に問題視されるようになってきました。
- ・戸別収集や資源化品目の多さから、ごみ収集・資源化体制への市民満足度は高い状況です。
- ・ごみ総排出量は減少していますが、総資源化率は伸び悩んでいます。
- ・生ごみの資源化は、農地も少ないことから市全体の仕組みを構築するのは現実的でなく、堆肥化容器や処理機器の設置を支援することで資源化ルートの多様化を図ってきました。
- ・食品ロス問題がクローズアップされる中、フードバンクとの協定締結など、中長期的な取組の体制が構築できました。

